

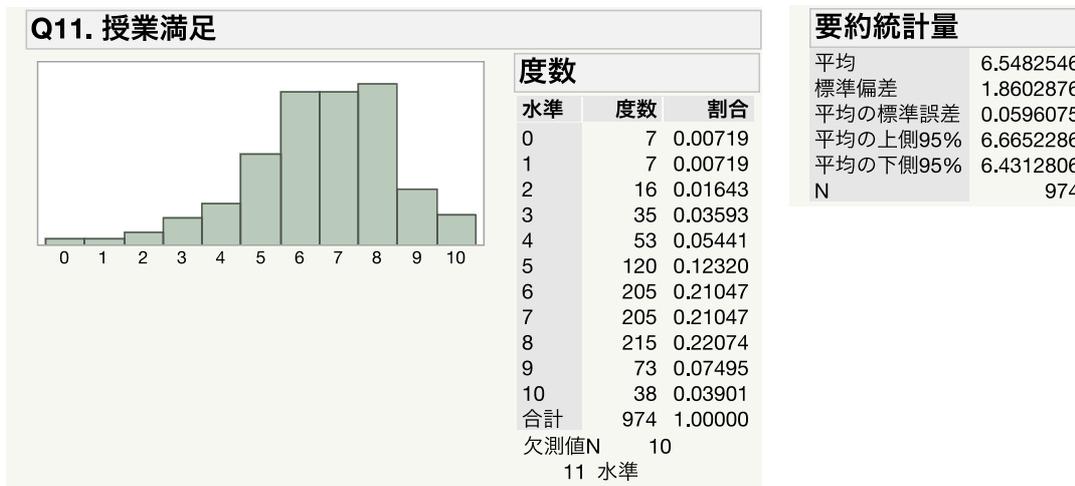
7. 授業満足度

このセクションでは、Q11（授業満足度）、Q12（満足度が高い理由）、Q13（満足度が低い理由）に関する部分について結果を報告する。

【これまでの授業への満足度】

Q11 本学でこれまで履修してきた授業に対する全体的な満足度はどの程度ですか。0(0%満足)～10(100%満足)の11段階で選択してください。

<全学>



最頻値は8（80%満足）であり、ついで7（70%満足）と6（60%満足）が同率で続く。しかし0（0%満足）から10（100%満足）まで広い範囲に分布しており、平均値は6.55である。全体としては65.5%程度の満足、ということになる。2021年度は最頻値が6であり、平均値が6.42であったことを考えると、満足度はわずかながら上昇したと言っても良いかも知れない。

参考：2021年度



<学年別>

学年	数	平均	標準偏差
1	390	6.44	1.86
2	247	6.59	1.67
3	177	6.74	1.65
4	159	6.53	2.32

参考：2021 年度

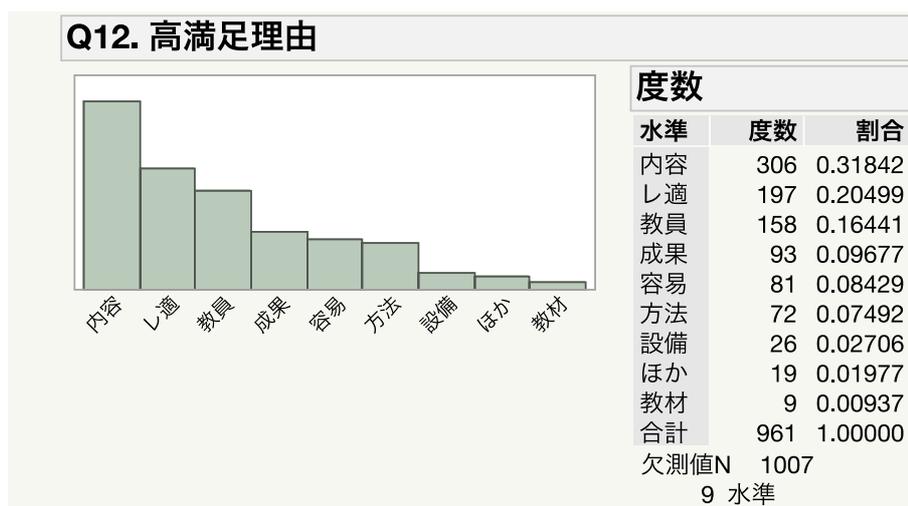
学年	数	平均	標準偏差
1	669	6.44	1.89
2	519	6.05	2.01
3	394	6.57	1.85
4	225	7.00	1.53

昨年度は、1年生の数値が2年生になると下降し、3年生で再び上昇し、4年生で最も高くなるという傾向が見えたが、本年度はそうはならなかった。1年<2年<3年と上昇し、4年でやや下降している。もちろんこれは同一集団の経年変化ではないので、学年集団ごとの属性であるのかも知れない。

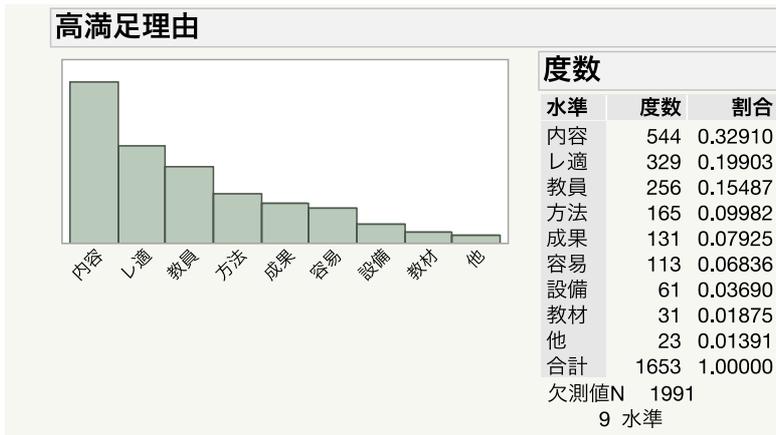
Q12 Q11で7~10を選んだ方は、満足度が(比較的)高い理由を教えてください。(主なものを2つまで)

- ①授業内容がよい [内容]
- ②授業方法がよい [方法]
- ③担当教員が魅力的である [教員]
- ④単位の修得が容易である [容易]
- ⑤授業レベルが自分に合っている [レ適]
- ⑥教材がよい [教材]
- ⑦施設/設備がよい [設備]
- ⑧授業の成果が実感できる [成果]
- ⑨その他 [ほか]

<全学>



参考：2021 年度



昨年度と、内容（授業内容がよい）＞レ適（授業レベルが自分に合っている）＞教員（担当教員が魅力的である）の3つの順位は共通である。

<学年別>

学年	内容	レ適	教員	成果	容易	方法	設備	ほか	教材
1	28.5	25.2	14.4	9.1	9.1	7.2	3.1	2.5	0.8
2	32.8	19.3	14.3	12.3	7.0	9.8	0.8	2.9	0.8
3	37.8	17.1	19.2	8.8	5.2	7.3	2.6	1.6	0.5
4	30.4	16.2	21.1	8.1	12.4	5.0	5.0	0.0	1.9

参考：2021 年度

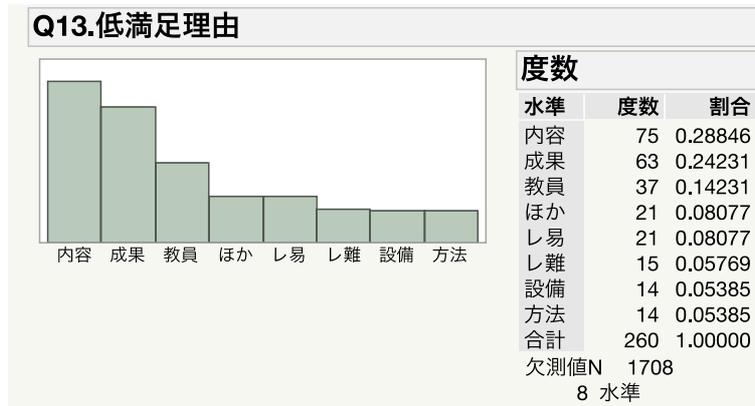
学年	内容	レ適	教員	方法	成果	容易	設備	教材	他
1	31.2	22.9	14.3	9.9	8.9	6.5	3.8	1.9	0.7
2	32.8	19.6	15.3	10.4	8.3	7.6	2.8	0.9	2.4
3	34.7	13.9	17.6	10.5	7.9	6.8	3.9	2.9	1.8
4	34.4	22.5	15.3	8.8	5.3	6.5	4.6	1.9	0.8

学年別には1年生よりも2～3年生で「内容」が多くなるのは昨年度と共通の傾向である。

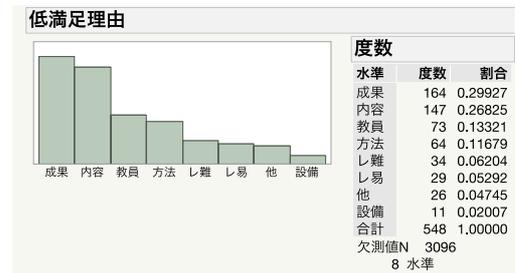
Q13 Q11で0～4を選んだ方は、満足度が(比較的)低い理由を教えてください。(主なものを2つまで)

- ①授業内容に魅力がない [内容]
- ②授業方法になじめない [方法]
- ③担当教員と相性が悪い [教員]
- ④授業レベルが難しすぎる [レ難]
- ⑤授業レベルが簡単すぎる [レ易]
- ⑥施設/設備が貧弱である [設備]
- ⑦授業の成果が実感できない [成果]
- ⑧その他 [ほか]

<全学>



参考：2021年度



満足度が低い場合にもっとも多い理由は「内容」（授業内容に魅力がない）で、「成果」（授業の成果が実感できない）、そして「教員」（担当教員と相性が悪い）である。昨年度は「成果」と「内容」の順位が逆であったが、この2つが主要な要因であることは変わらないようだ。また「レ易」と「レ難」の両方があるのがレベル設定の上で悩ましいことである。

<学年別>

学年	内容	成果	教員	ほか	レ易	レ難	設備	方法
1	25.6	17.1	11.1	10.3	12.0	11.1	6.8	6.0
2	29.0	29.0	25.8	4.8	3.2	1.6	4.8	1.6
3	32.3	35.5	9.7	3.2	6.5	0.0	3.2	9.7
4	34.0	28.0	10.0	10.0	6.0	2.0	4.0	6.0

参考：2021年度

学年	成果	内容	教員	方法	レ難	レ易	他	設備
1	24.6	28.6	14.6	14.6	8.2	4.1	3.2	2.3
2	37.6	25.8	12.4	8.3	5.2	4.1	5.2	1.6
3	31.7	27.7	10.9	11.9	5.0	5.9	5.9	1.0
4	15.2	18.2	18.2	12.1	3.0	18.2	9.1	6.1

学年別に見ると4年生は「内容」が、3年生は「成果」が、2年生は「内容」と「成果」が、1年生は「内容」が多かった。また1年生に「レ易」と「レ難」がおおよそ同じくらいあるのが目立つ。昨年度と見比べてみるとパターンが異なるので、これらは学年の特徴というよりも、その年ごとの学生集団の特徴なのかも知れない。ただいずれにせよ回答率が低いので解釈の妥当性は限定的である。

8. DP 達成度

このセクションでは、Q14～Q22（DP 達成度）に関する部分について結果を報告する。

【DP 達成度】

以下の設問は、本学の「卒業認定・学位授与方針」に関連した問いです。本学では以下のような力を身につけた学生に卒業を認定すると定めています。現時点での自分の認識として、それぞれの力がどの程度身についていると思いますか。0(まったく身につけていない)～10(100%身につけている)の11段階で選んでください。

Q14「豊かな教養の基礎となる広範な知識を修得している」

Q15「自らが学ぶ学位プログラムの基礎となる専門知識・技能を修得し、活用することによって、現代社会の諸問題にチャレンジできる」

Q16「国内外における諸課題を発見し、解決策を構想するための思考力や判断力を身に付けている」

Q17「自分の意見を持ち、それを適切に表現・伝達できるとともに、背景や価値観の異なる他者の意見を傾聴し、他者と協力・共同することにより問題を解決する能力を持っている」

Q18「生涯にわたって学び続け、国際社会や地域社会の発展に貢献する意欲と能力をもっている」

Q19「修得した専門的知識と技能を使って、社会の中核・中堅として、その発展に貢献する意欲と能力を持っている」

Q20「広い知識を求め学び続け、応用的能力を展開させ、使命感を持って社会の発展に寄与できる」

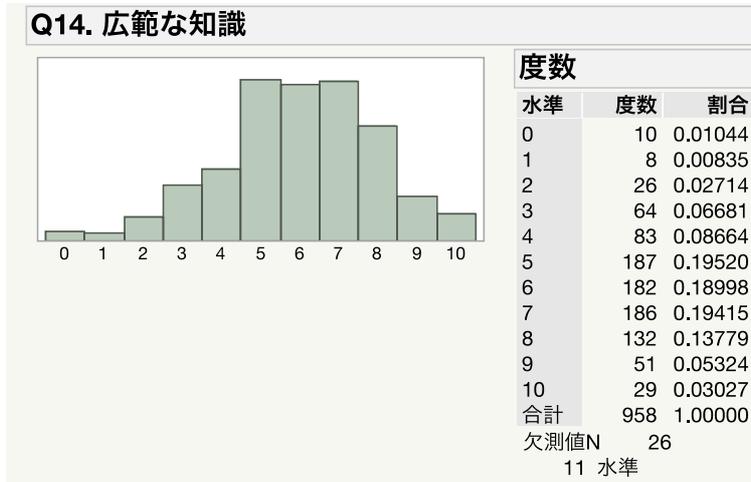
Q21「本学の建学の精神(漢学の振興と東西文化の融合)を知り、新しい文化の創造を目指す」

Q22「本学の理念(多文化共生)に基づき、多様性を認め、地球的規模の視野と感覚を持ち、異文化への理解力・共感力、コミュニケーション能力を発揮し、多文化社会における諸問題の解決に貢献できる」

次ページより各問に関して、全学の回答分布、全学の要約統計量、学年別の平均と標準偏差を示す。全学の回答に関しては、全ての設問で最頻値は5(50%身につけている)である。学年別に見ると全ての設問で、1年<2年<3年<4年と平均値が上昇している。

Q14 「豊かな教養の基礎となる広範な知識を修得している」

<全学>



要約統計量

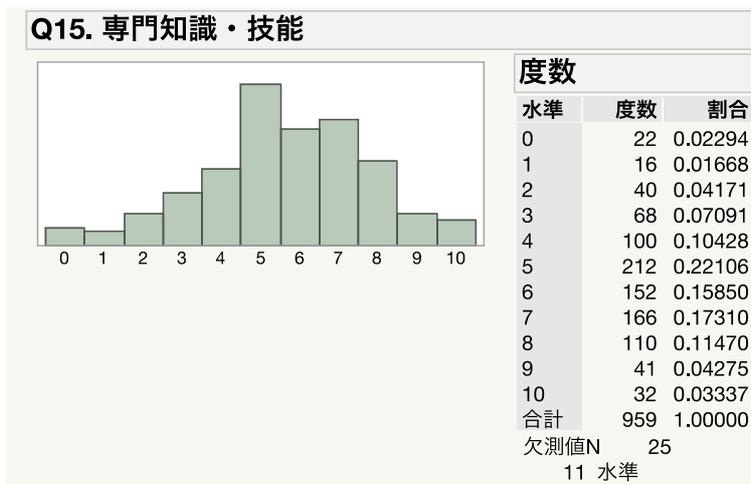
平均	5.9686848
標準偏差	1.9681531
平均の標準誤差	0.0635881
平均の上側95%	6.093473
平均の下側95%	5.8438965
N	958

<学年別>

学年	人数	平均	標準偏差
1	385	5.52	1.94
2	244	6.01	1.81
3	173	6.29	1.80
4	155	6.68	2.17

Q15 「自らが学ぶ学位プログラムの基礎となる専門知識・技能を修得し、活用することによって、現代社会の諸問題にチャレンジできる」

<全学>



要約統計量

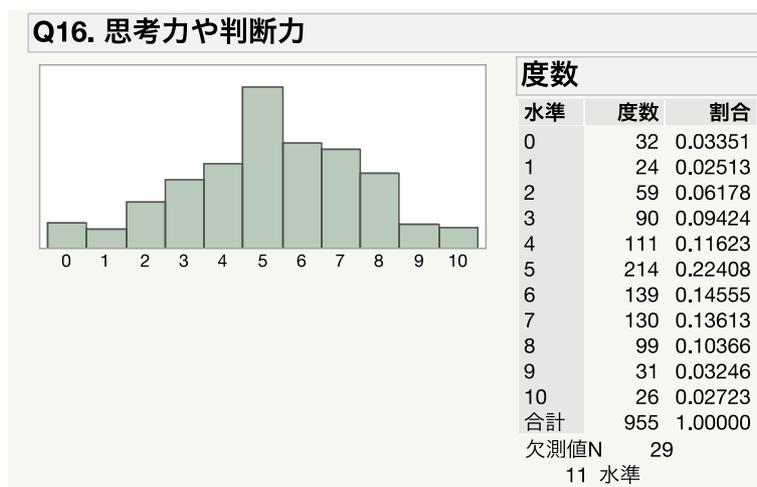
平均	5.6339937
標準偏差	2.1466417
平均の標準誤差	0.0693187
平均の上側95%	5.7700277
平均の下側95%	5.4979598
N	959

<学年別>

学年	人数	平均	標準偏差
1	386	5.20	2.06
2	242	5.67	2.05
3	174	5.84	2.09
4	156	6.44	2.31

Q16 「国内外における諸課題を発見し、解決策を構想するための思考力や判断力を身に付けている」

<全学>



要約統計量

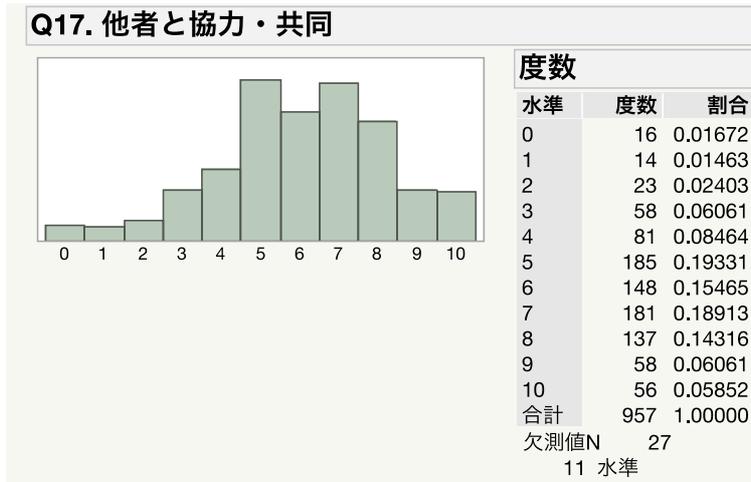
平均	5.2366492
標準偏差	2.249742
平均の標準誤差	0.0727999
平均の上側95%	5.3795157
平均の下側95%	5.0937827
N	955

<学年別>

学年	人数	平均	標準偏差
1	386	4.86	2.10
2	241	5.23	2.14
3	171	5.42	2.20
4	156	5.99	2.61

Q17 「自分の意見を持ち、それを適切に表現・伝達できるとともに、背景や価値観の異なる他者の意見を傾聴し、他者と協力・共同することにより問題を解決する能力を持っている」

<全学>



要約統計量

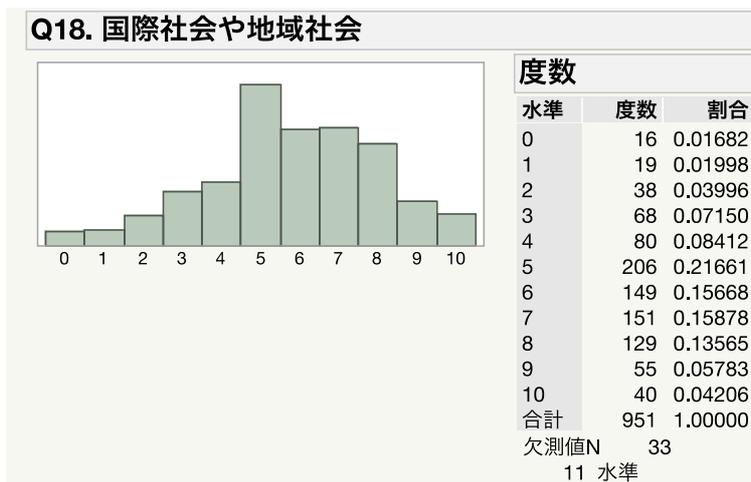
平均	6.077325
標準偏差	2.1614437
平均の標準誤差	0.0698696
平均の上側95%	6.2144404
平均の下側95%	5.9402096
N	957

<学年別>

学年	人数	平均	標準偏差
1	386	5.61	2.07
2	241	6.11	1.99
3	173	6.43	2.11
4	156	6.82	2.41

Q18 「生涯にわたって学び続け、国際社会や地域社会の発展に貢献する意欲と能力をもっている」

<全学>



要約統計量

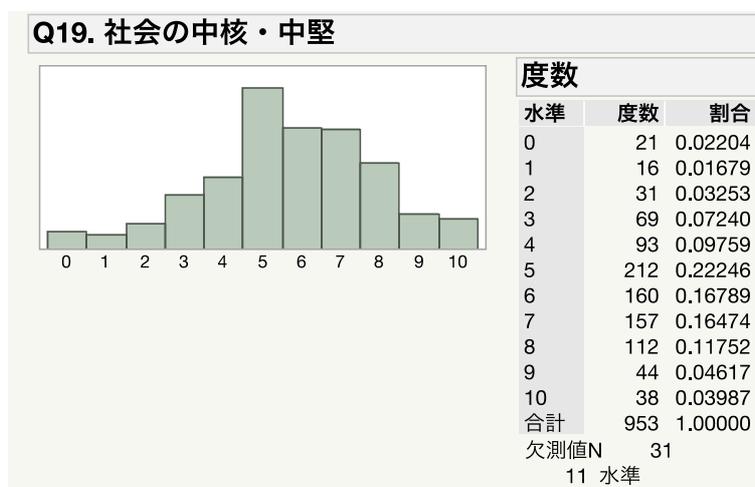
平均	5.8117771
標準偏差	2.192165
平均の標準誤差	0.0710858
平均の上側95%	5.9512805
平均の下側95%	5.6722737
N	951

<学年別>

学年	人数	平均	標準偏差
1	383	5.37	2.16
2	238	5.87	1.98
3	173	6.16	2.04
4	156	6.44	2.51

Q19「修得した専門的知識と技能を使って、社会の中核・中堅として、その発展に貢献する意欲と能力を持っている」

<全学>



要約統計量

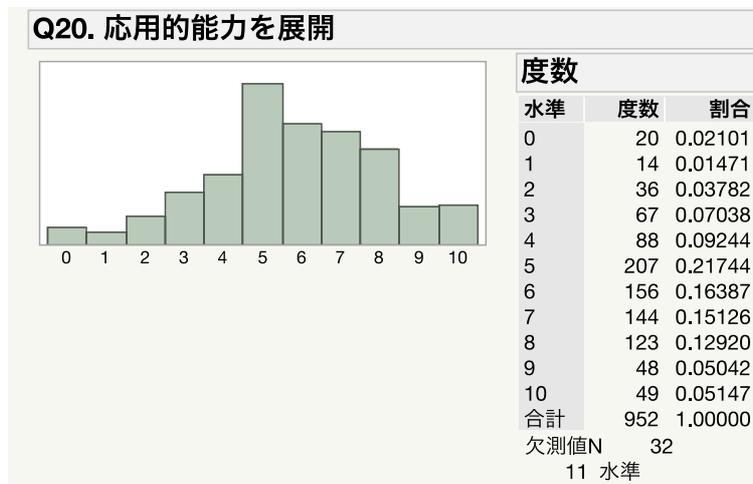
平均	5.7166842
標準偏差	2.147283
平均の標準誤差	0.0695573
平均の上側95%	5.8531875
平均の下側95%	5.5801808
N	953

<学年別>

学年	人数	平均	標準偏差
1	385	5.34	2.02
2	239	5.79	2.00
3	172	5.86	2.11
4	156	6.39	2.51

Q20 「広い知識を求め学び続け、応用的能力を展開させ、使命感を持って社会の発展に寄与できる」

<全学>



要約統計量

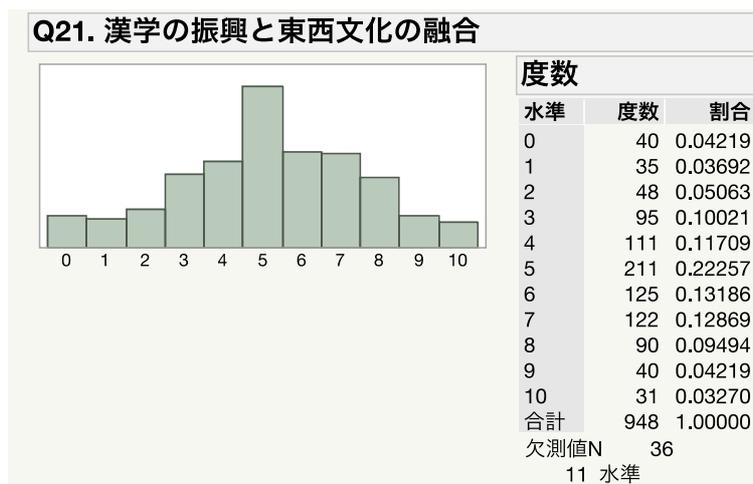
平均	5.802521
標準偏差	2.2047826
平均の標準誤差	0.0714574
平均の上側95%	5.9427534
平均の下側95%	5.6622886
N	952

<学年別>

学年	人数	平均	標準偏差
1	384	5.41	2.16
2	239	5.85	2.02
3	172	6.03	2.10
4	156	6.45	2.51

Q21 「本学の建学の精神(漢学の振興と東西文化の融合)を知り、新しい文化の創造を目指す」

<全学>



要約統計量

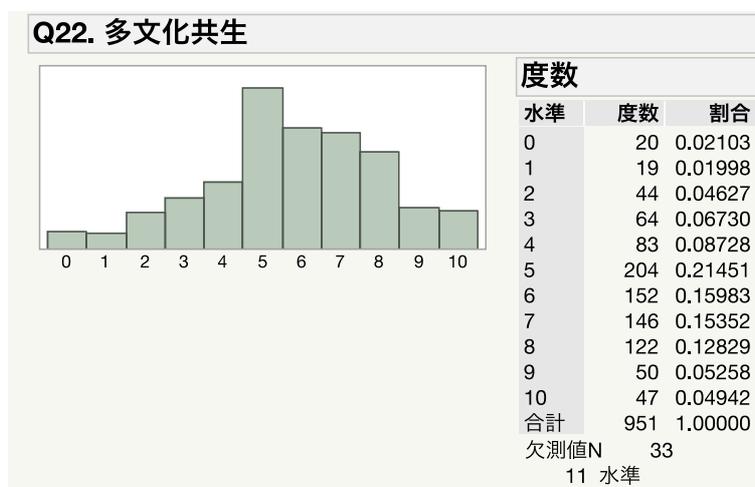
平均	5.17827
標準偏差	2.3636798
平均の標準誤差	0.0767688
平均の上側95%	5.3289266
平均の下側95%	5.0276135
N	948

<学年別>

学年	人数	平均	標準偏差
1	383	4.84	2.24
2	237	5.33	2.22
3	172	5.26	2.39
4	155	5.70	2.73

Q22 「本学の理念(多文化共生)に基づき、多様性を認め、地球的規模の視野と感覚を持ち、異文化への理解力・共感力、コミュニケーション能力を発揮し、多文化社会における諸問題の解決に貢献できる」

<全学>



要約統計量

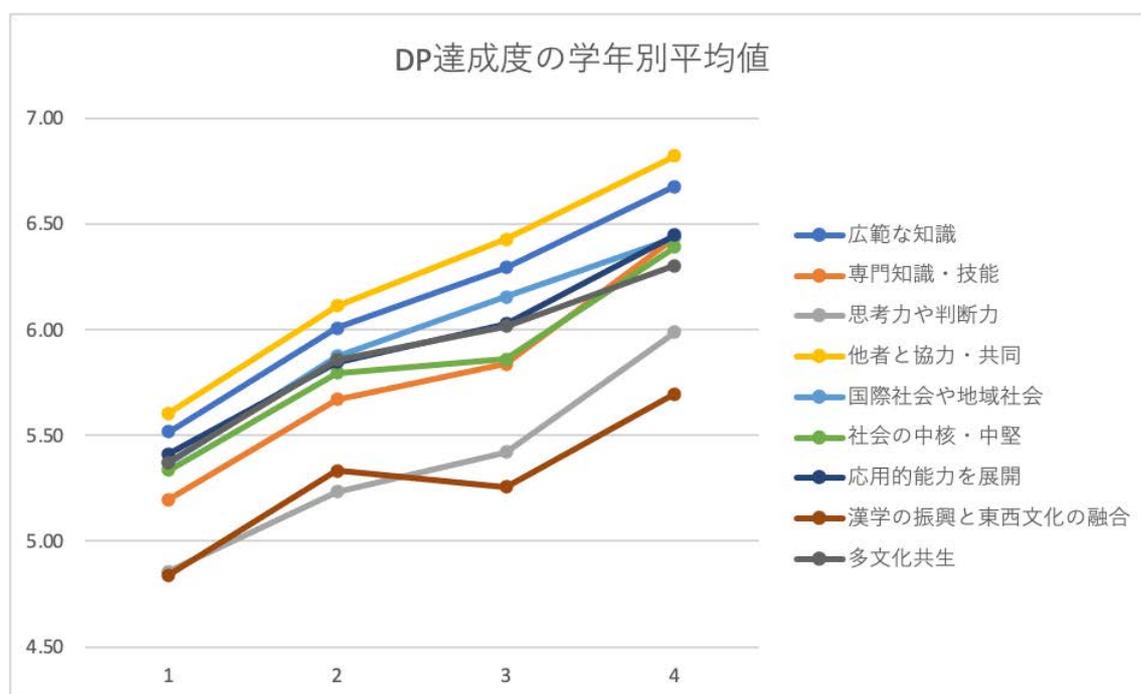
平均	5.7634069
標準偏差	2.2463459
平均の標準誤差	0.0728428
平均の上側95%	5.9063582
平均の下側95%	5.6204556
N	951

<学年別>

学年	人数	平均	標準偏差
1	385	5.37	2.16
2	238	5.86	2.19
3	172	6.02	2.12
4	155	6.30	2.52

以上の DP 達成度の平均値学年推移を一つの表、グラフにまとめて表示すると以下のようなになる。

	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
	広 範 な 知 識	専 門 知 識 ・ 技 能	思 考 力 や 判 断 力	他 者 と 協 力 ・ 共 同	国 際 社 会 や 地 域 社 会	社 会 の 中 核 ・ 中 堅	応 用 的 能 力 を 展 開	化 漢 の 融 合	漢 学 の 振 興 と 東 西 文 化	多 文 化 共 生
学年										
1	5.52	5.20	4.86	5.61	5.37	5.34	5.41	4.84	5.37	
2	6.01	5.67	5.23	6.11	5.87	5.79	5.85	5.33	5.86	
3	6.29	5.84	5.42	6.43	6.16	5.86	6.03	5.26	6.02	
4	6.68	6.44	5.99	6.82	6.44	6.39	6.45	5.70	6.30	



DP別の自己認識による達成度はほとんどの項目で1年<2年<3年<4年、と数値が上がっていくことが確認できた。項目間では、「他者と協力・共同」の数値が最も高く、4年時には6.82に達している。一方、数値が低いのは「漢学の振興と東西文化の融合」と「思考力や判断力」である。いずれも授業によって直接働きかけることのできるはずの分野であるため、より一層の授業充実の必要性が示唆される。

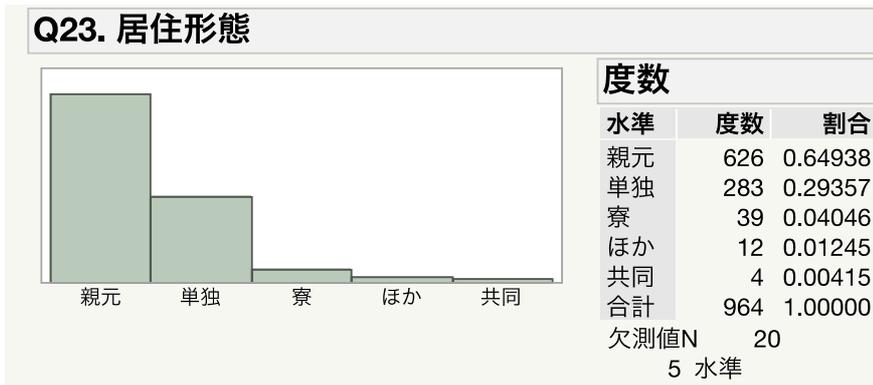
9. 生活・心身の悩み・経済状況など

このセクションでは、Q23～Q39 の、生活状況や悩みの有無、経済状況等に関する部分について結果を報告する。

【現在の生活状況】

Q23 今年度の居住形態はどれに当てはまりますか。最も期間が長いものを選んでください。

- ①親元で暮らしている [親元]
- ②ひとり暮らし [単独]
- ③学生寮・部活動の寮 [寮]
- ④ルームシェア・シェアハウス [共同]
- ⑤その他 [ほか]



学年	親元	単独	寮	ほか	共同
1	66.2	27.6	4.1	1.6	0.5
2	66.0	29.9	3.3	0.8	0.0
3	58.3	35.4	4.0	1.1	1.1
4	67.3	26.3	5.1	1.3	0.0

居住形態に関しては、約 65%が「親元で暮らしている」と答えた。このことから、昨年度に引き続き本学において首都圏近郊からの進学・通学者が多いことがうかがえる。

Q24 通常時の主な通学手段は何ですか。最も利用時間が長いものを選んでください。

- ①電車 [電車]
- ②スクールバス（高坂／東武練馬～キャンパス） [高東]
- ③スクールバス（鴻巣便／久喜便） [鴻久]
- ④路線バス [路線]
- ⑤自動二輪・原付 [自二]

- ⑥自転車 [自転]
- ⑦徒歩 [徒歩]
- ⑧その他 [ほか]

Q24. 通学手段



度数

水準	度数	割合
電車	614	0.63561
高東	185	0.19151
鴻久	74	0.07660
徒歩	31	0.03209
自転	23	0.02381
自二	15	0.01553
路線	13	0.01346
ほか	11	0.01139
合計	966	1.00000

欠測値N 18

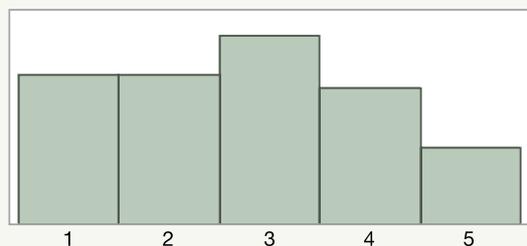
8 水準

通学手段に関して、約64%が「電車」と答えた。次いで約19%が「スクールバス（高坂／東武練馬～キャンパス）」であり、キャンパスの最寄り駅周辺に居住している学生の利用がうかがえる。また、約8%が「スクールバス（鴻巣便／久喜便）」であるが、これは埼玉県東部地域居住学生の通学手段の需要が一定数あることが見てとれる。

Q25 通常時の通学所要時間(片道)はどの程度ですか。

- ①30分未満
- ②30分～1時間未満
- ③1時間～1時間30分未満
- ④1時間30分～2時間未満
- ⑤2時間以上

Q25. 通学時間



度数

水準	度数	割合
1	206	0.21281
2	207	0.21384
3	262	0.27066
4	189	0.19525
5	104	0.10744
合計	968	1.00000

欠測値N 16

5 水準

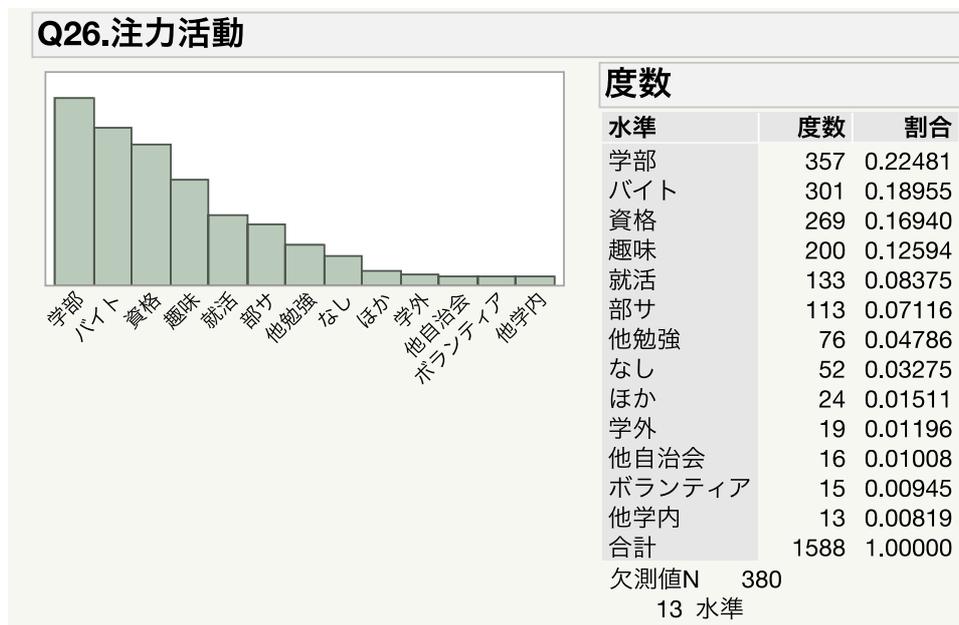
最頻値は3（1時間～1時間30分未満）で、約27%を占める。3と4と5（通学所要時間が1時間以

上)の合計の割合が約57%であり、Q22において約65%が「親元で暮らしている」と回答していることから通学時間の長さとの関連が見てとれる。この傾向は昨年度も確認された。

【取り組んでいること・課外活動】

Q26 現在、特に力を入れて取り組んでいることは何ですか。(主なものを2つまで)

- ① 学部学科の勉強 [学部]
- ② 資格試験の勉強 [資格]
- ③ その他の勉強 [他勉強]
- ④ 部活動・サークル活動 [部サ]
- ⑤ 上記④以外の学生自治会の活動 [他自治会]
- ⑥ そのほかの団体・委員会等大学内のコミュニティの活動 [他学内]
- ⑦ ボランティア活動 [ボランティア]
- ⑧ アルバイト [バイト]
- ⑨ 学外のコミュニティ等の活動 [学外]
- ⑩ 趣味の活動 [趣味]
- ⑩ 就職活動・インターンシップ [就活]
- ⑪ 上記以外 [ほか]
- ⑫ とくに何にも力を入れていない [なし]



全学では、最頻値は「学部」(学部学科の勉強)で、約22%を占め、次いで「バイト」(アルバイト)が約19%であり、約半数の割合が勉強とアルバイトに注力していることがわかる。次に学年別の分布を示す。

学年	学部	バイト	資格	趣味	就活	部サ	他勉強	なし	ほか	学外	他自治	ボラ	他学内
1	26.8	22.1	15.1	12.5	0.5	9.7	4.5	3.4	1.1	1.3	1.3	0.9	0.9
2	27.2	19.3	21.7	11.0	3.6	6.7	4.1	1.9	0.7	1.4	1.0	0.7	0.7
3	19.5	13.3	13.7	6.8	33.8	4.1	3.1	1.7	1.4	0.3	0.7	1.0	0.7
4	5.6	16.7	17.6	23.2	6.9	4.7	9.0	7.3	4.3	1.7	0.9	1.3	0.9

学年別には、「学部」（学部学科の勉強）と「バイト」（アルバイト）の割合が最も高いのは1年生である。一方で最も低いのは4年生であった。学年の順序では4年<3年<2年<1年であり、進級するほど「学部」（学部学科の勉強）と「バイト」（アルバイト）の割合が減少していることがわかる。なお、「就活」（就職活動・インターンシップ）が最も高いのは3年生で、「趣味」（趣味の活動）や「他勉強」（その他の勉強）が最も高いのは4年生である。

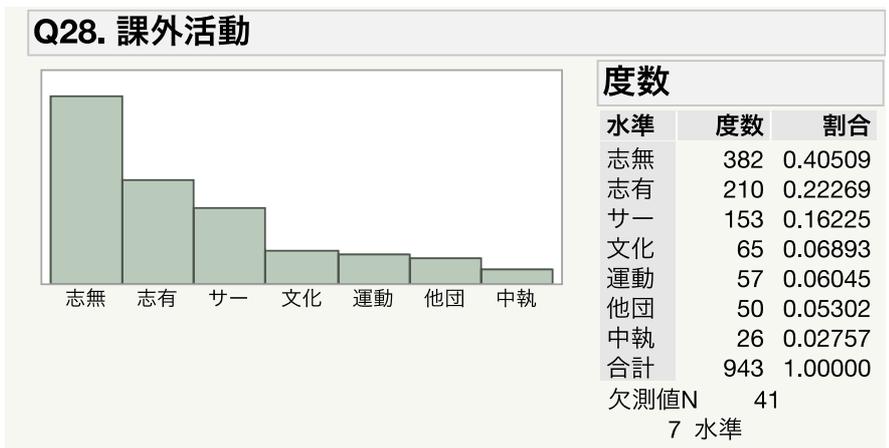
Q27 Q25で「⑫上記以外」を選んだ方は、その内容について教えてください。（自由記述）

Q25で「⑫上記以外」を選んだ学生は31名おり、そのうち29名がQ27に実質的なコメントを書いていた。大まかに分類すると、自己研鑽に関連すること（習い事、資格学習、学部学科以外の学習等）が10件、卒業後の進路に関連すること（就職のための準備、芸能活動等）が8件、大学に関連すること（留学、ゼミ活動、論文執筆等）が8件、その他が3件であった。自らのスキルアップに励んでいる趣旨のコメントが多かった。

Q28 現在、学内の課外活動団体等（部活動・サークル活動・委員会活動等）に所属していますか。主に活動しているものを選んでください。引退した方は「所属している」ものとしてお答えください。

※組織：文化団体連合会・体育連合会・大東祭実行委員会・放送協会・全学応援團

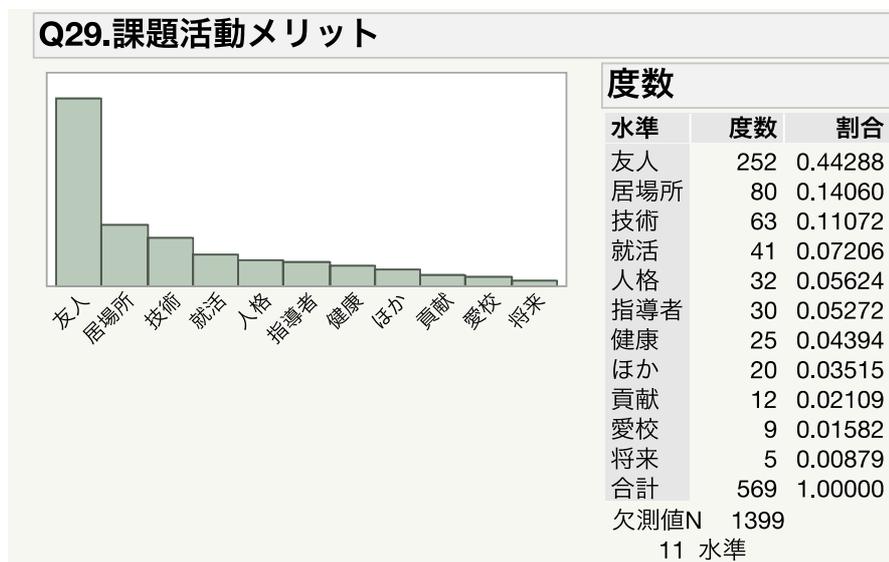
- ①中央執行委員会・組織※・機関に所属している [中執]
- ②運動部に所属している [運動]
- ③文化部に所属している [文化]
- ④サークルに所属している（公認・非公認問わず） [サー]
- ⑤そのほかの団体・委員会等大学内のコミュニティに所属している [他団]
- ⑥所属する意志はあるが、所属していない [志有]
- ⑦所属する意志がなく、所属していない [志無]



最頻値は、「志無」(所属する意志がなく、所属していない)が41%で、次いで「志有」(所属する意志はあるが、所属していない)が22%だった。合計すると、63%の割合で課外活動に参加していないことが見てとれる。コロナ禍による活動の制限が昨年度と比較して緩和された2022年度においても、課外活動に参加していないとの回答が依然として高率になっていることには注意したい。

Q29 Q28で①～⑤を選んだ方は、課外活動で良かったと思うことを教えてください。(主なものを2つまで)

- ①よい指導者に出会えた [指導者]
- ②友人を得た [友人]
- ③居場所・帰属感を得た [居場所]
- ④愛校心を持つことができた [愛校]
- ⑤技術や知識の向上に役立った [技術]
- ⑥社会貢献ができた [貢献]
- ⑦人格形成に役立った [人格]
- ⑧健康増進に役立った [健康]
- ⑨将来の夢が持てた [将来]
- ⑩就職活動に役立った(役立ちそう) [就活]
- ⑪その他 [ほか]

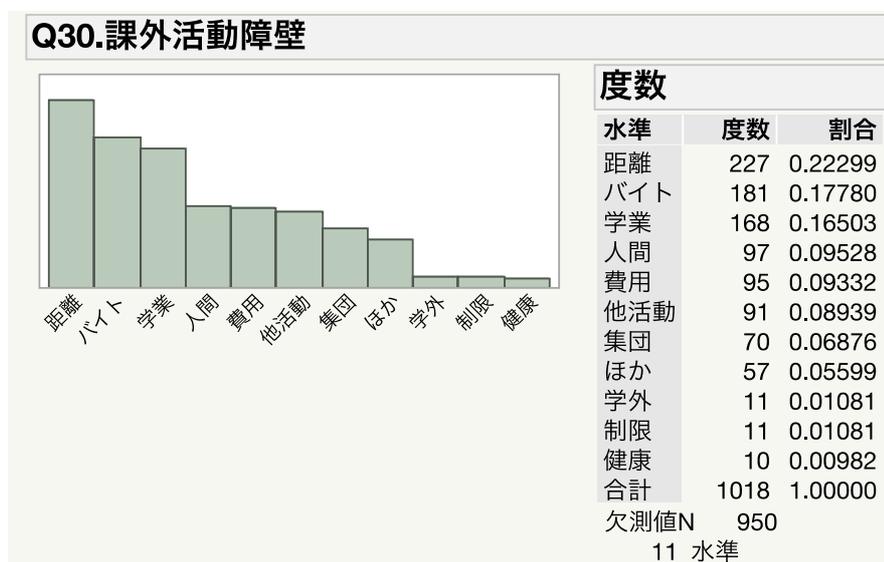


最も頻度が高いのは「友人」(友人を得た)である。上の表で「割合」とあるのは、すべての回答を1.00としたときの割合であるが、この項目に回答した人数は359人であり、回答した人数に対する割合で見ると、回答者の約70%が「友人」(友人を得た)を挙げていたことがわかる。このことから、共通の課外活動を通じた交友関係の構築に利点を感じた学生の割合が高かったことがうかがえる。

Q30 Q28で⑥～⑦を選んだ方は、課外活動を行うことや、団体への入部や参加を考えるうえで障壁になること、

抵抗を感じることは何ですか。(主なものを2つまで)

- ①通学距離との関係 [距離]
- ②学業との両立 [学業]
- ③アルバイトとの両立 [バイト]
- ④人間関係 [人間]
- ⑤集団生活に拘束されること [集団]
- ⑥費用がかかる [費用]
- ⑦怪我や健康面 [健康]
- ⑧学外の団体の方がいい [学外]
- ⑨ほかにやりたいことがある [他活動]
- ⑩入部制限がある [制限]
- ⑪その他 [ほか]



最も頻度が高いのは「距離」（通学距離との関係）である。この項目に回答した人数は 616 人であり、回答した人数に対する割合で見ると、約 37%が「距離」（通学距離との関係）を挙げていることがわかる。次いで、「バイト」（アルバイトとの両立）が約 29%、「学業」（学業との両立）が約 27%と続いている。昨年度と比較し、「バイト」と「学業」の回答率が逆転しているものの、引き続き自身の学生生活と両立することに障壁を感じて課外活動に参加できない学生が多いことがうかがえる。

【不安・悩み】

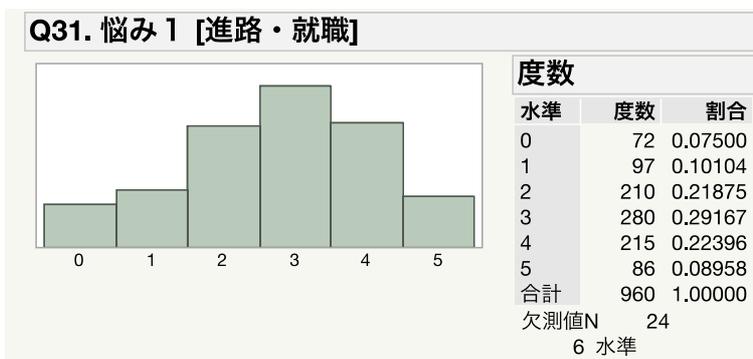
Q31 次のそれぞれの事項に対する不安や悩みはどの程度ですか。0(不安なし)～5(耐え難いほど)の 6 段階で選んでください。

0 (不安なし) 1 (少し) 2 (多少) 3 (かなり) 4 (非常に) 5 (耐え難いほど)

- ①進路・就職
- ②学業・授業

- ③留学
- ④心身の健康
- ⑤アルバイト先での問題
- ⑥経済的問題
- ⑦対人・友人関係
- ⑧課外活動
- ⑨家族関係
- ⑩性の悩み
- ⑪恋愛の悩み
- ⑬ 性格・能力
- ⑭ 人生観
- ⑭ ハラスメント

<進路・就職>



<学業・授業>

